

めいらず 不馬入遺跡

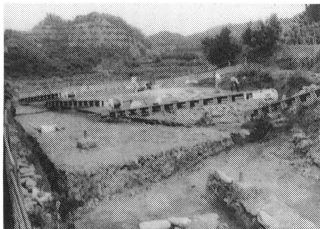
調査の概要

不馬入遺跡は、額田郡幸田町大字須美字不馬入に所在する。遺跡は幸田町の西端、幡豆山塊の谷裾北向き斜面（標高約53m）に立地し、周辺には雑木林、果樹園、畑地、山林が広がっている。

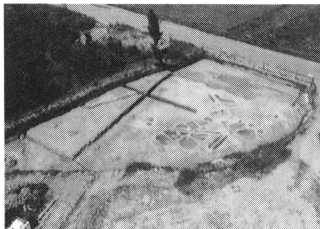
調査は国道23号線バイパス建設工事に伴い、平成3年4月より6月まで実施した。調査区は旧畑地であったが、平坦面を確保する際削平された部分と盛られた部分がみられ、堆積状況は単純ではなかった。

基本層序を概観すると、調査区東側の低い部分には現代の客土が厚く盛られており、中央部では耕作土が、西側では礫混じりの整地層が堆積していた。削平された部分では黄褐色砂質シルト層、赤褐色シルト（通称「山砂」）層、岩盤層が検出でき、さらにこの平坦面を広く確保するために、低い部分には礫混じりの整地層が同時期平坦面として認められた。この面から検出された遺構は、土坑23基、溝3条、井戸2基、石列等であった。これらの遺構から検出された遺物は、いずれも18～19Cにかけての陶器、磁器などでありこの遺構面の造成時期を示唆している。

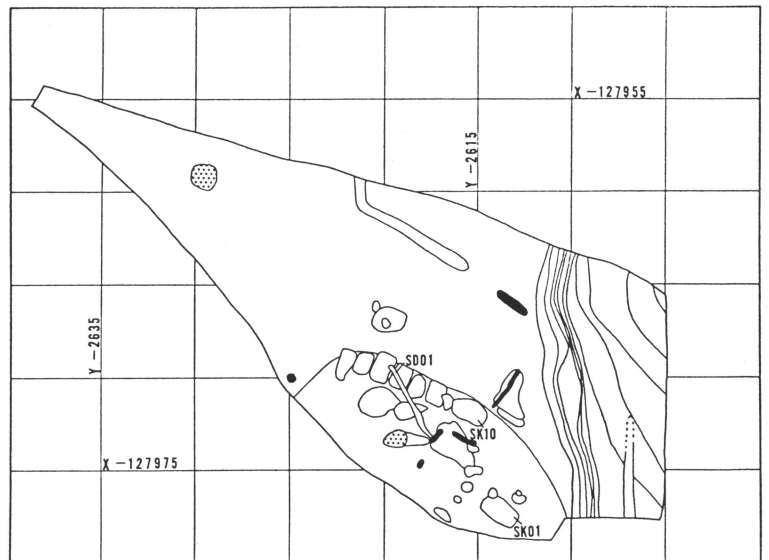
調査区は旧平坂街道沿いの集落からは離れた地点に位置しており、調査区内にみられる遺構、遺物とも考え合わせ、現在その性格を検討中である。（松田 訓）



作業風景



全景（南西より）



○● 井戸
● 石置き用の掘り込み

第Ⅰ図 調査区遺構図